



# 前小だより

ひたちなか市立前渡小学校  
令和4年度学校だより  
No.16 3月第3号  
令和5年3月24日(金)

## 今を変えれば 未来が変わる

# 令和4年度修了 一年間ありがとうございました!!

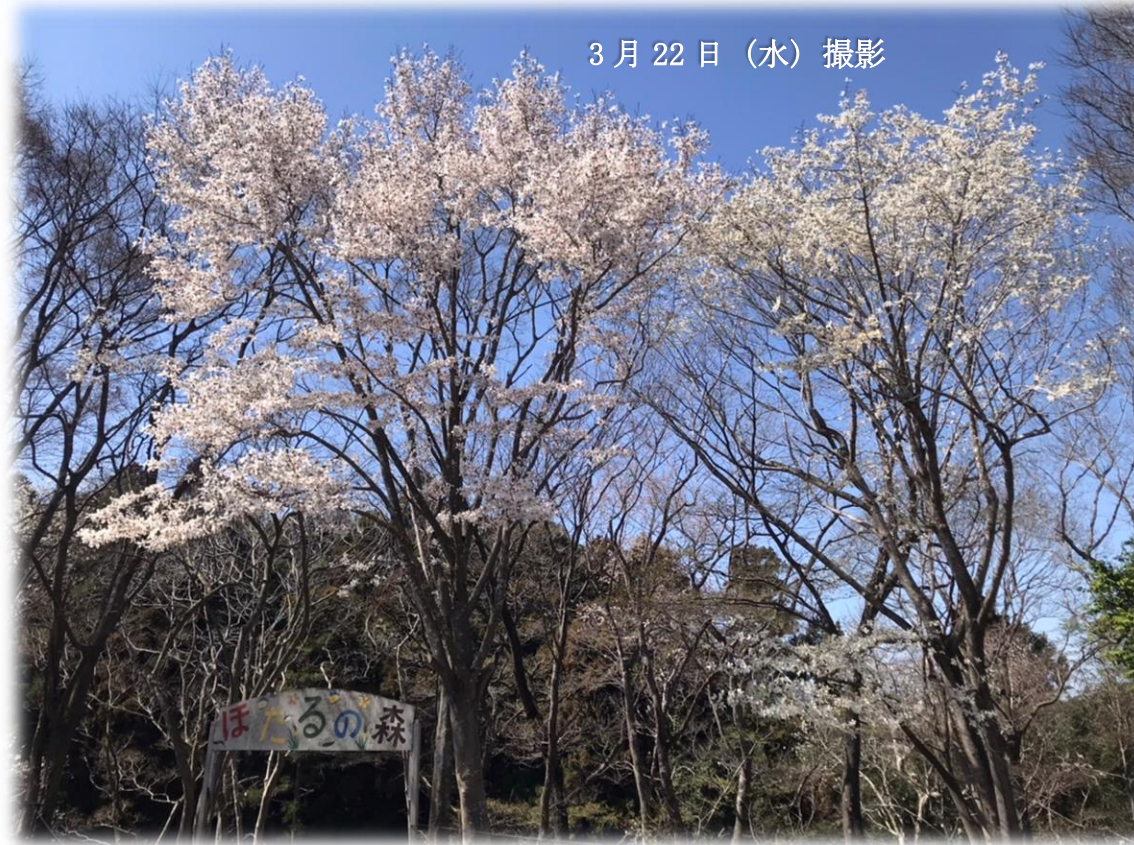
令和4年度の学校生活が、本日で幕を閉じます。今年度の授業日は、全部で200日でした。過ぎ去ってみればあっという間の一年でしたが、やっとここまでたどり着いた感もあります。

今週の3月20日には、厳かに第76回卒業式を挙行できました。式に臨んだ6年生は、校歌を声高らかに歌いました。立派な態度で式に臨む姿は、後輩たちにとってよい手本となりました。1年生から5年生までは自宅で式の映像を参観する予定でしたが、果たして何人の児童が、卒業生と一緒に国歌や校歌を口ずさむことができたでしょうか。もし、家で歌っている写真や動画があれば、ぜひ見てみたいところです。

さて、126名が卒業したことで、今日現在の本校の在籍児童数は664名です。6年生が生活していた南校舎の3階は5年生のみとなり、いささか寂しい感じもしますが、間もなく入学する新1年生が来るのを楽しみに待つことにします。

前渡小のみなさん、春休みはたったの2週間しかありませんが、この間に気持ちを切り替え、新たなエネルギーをたっぷり蓄えてから、上の学年に進級してください。

保護者の皆様方、一年間、本校の学校教育を御支援・御協力いただき、感謝申し上げます。次年度もよろしくお願いいたします。



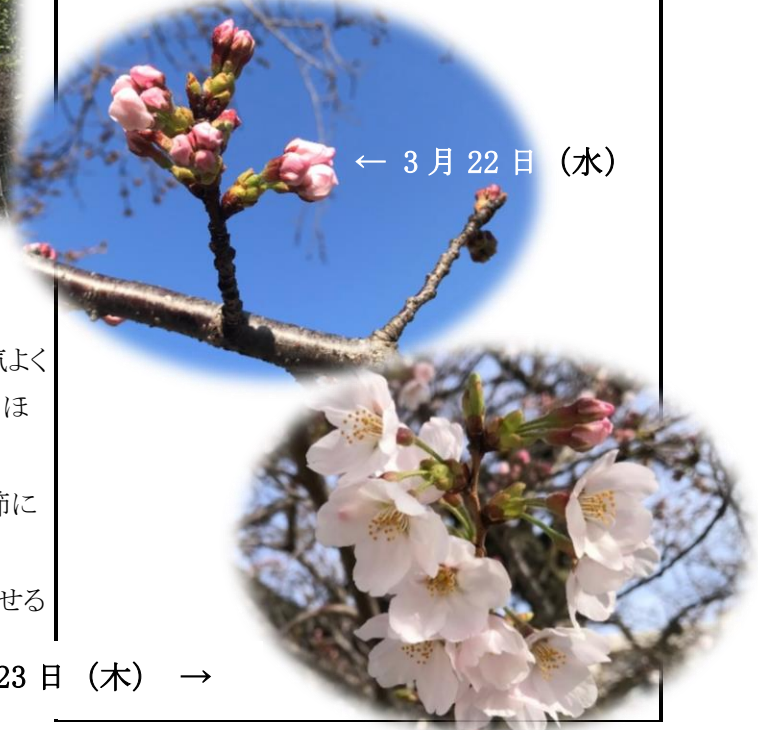
3月22日(水) 撮影

### 春の訪れ 2

この時期の前渡小学校、春の到来を感じさせてくれるのは校庭の桜たちだけではありません。この令和4年度に一世を風靡した「ほたるの森」をちょっと訪れてみると、コブシがその花びらを元気づけています。掲載した写真は、看板に日陰を施す役割をしているコブシですが、下を見おろすと、ほかにもいくつもコブシの花が咲いています。こちらの見ごろはいつごろまでになるのでしょうか。周りの落葉樹たちは、まだ、その枝に緑色の葉をたずさえてはいませんが、新芽の萌えたぎる季節になれば、今年もまた艶やかで潤いのあるほたるの森が、その姿を見せてくれることと思います。本校の宝物の一つである「ほたるの森」、これまでに多くの人がつなぎ紡いできた活動を途切れさせることなく、次の世代へと脈々と受け継いで守り育てていきたいと、あらためて思える森です。本校にお立ち寄りの際には、花が散る前に、一度、訪れていただければと思います。

### 春の訪れ

例年になく暖かな陽気に恵まれた3月、春の訪れが例年よりもずっと早いと感じています。卒業式の当日には、校庭の七福桜は、今にも花開くのではないかと思えるほどにその蕾を膨らませていましたが、お彼岸の中日を過ぎて22日、23日と少しずつ桜の花を咲かせ始めました。春休みに入って来週中旬ぐらいには見ごろとなり、4月を迎えるころには満開となりそうです。できることなら、4月6日の始業式、そして4月7日の入学式まではその花を咲かせ続けて、令和5年度の幕開けに彩を添えてほしいところです。



← 3月22日(水)

3月23日(木) →

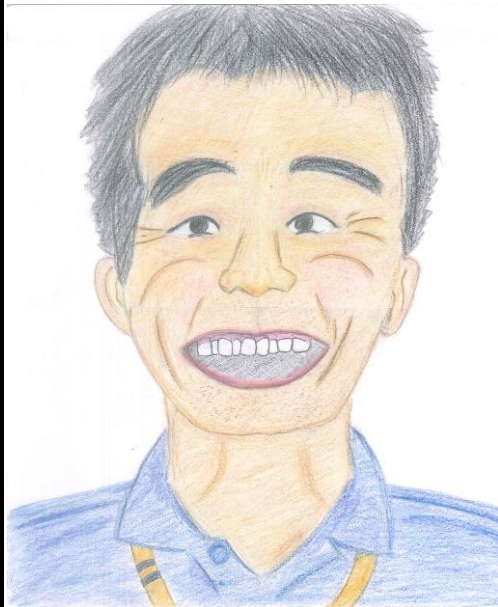




# 前小裏通信

生活の柱 : 時間と空間それから仲間、三つの『間(あいだ)』を大切に

Key Word : 間が大事 笑顔さわやか ワクワクと 宝は仲間 理想に向かって



副校長 町田先生

ほたる 根本先生

定年退職という節目を無事に迎えることができます。これも子供達との出会い、保護者・地域の皆様、先生方の支えのおかげと感謝しております。ありがとうございました。振り返ると、毎日、子供達と夢中で駆け抜けた36年間でした。駆け抜けたと言えば、勝田マラソンへの参加も連続36年フル完走です。考えてみると勝田マラソン42キロの3分の1がこの前渡小学区内です。前渡小職員として第70回レースのゴールを切れたことに喜びを感じるとともに何か不思議な感覚になります。ふと校庭を見ると、青空のもとほたるの森から始まる緑の中で子供達の歓声が響いています。・・・「いい教員生活だったなあ」で締めくくりです！

## 祝 定年退職

就職したのは紳士服の商社。配属先は「〇〇〇」。きらびやかなファッション業界。まるで流行の最先端に行くような毎日だった。とても楽しすぎて将来が不安になるくらい。

転職で悩んでいた時に知人から「学校の先生に向いている」と言われ、そこから通信で教員免許を取得し、採用となった。

興味をもって続けていることがある。植物の栽培と昆虫や魚の飼育だ。毎日少しずつ水やりをする。時々肥料もやり、太陽の光に当てる。水のやり過ぎや、肥料が強いと枯れてしまう。もちろん太陽は必須だ。昆虫や魚の飼育も適切な環境が大切だ。

子どもたちの最良の教育環境は教師自身であることを心に刻み、あと少しだけ、子どもたちと関わっていければと思う。



「先生って、何歳？」

「ハクサイだよ。」

「えっ？百歳？そんなおばあさんなの？」

こんな会話を、子供たちと数え切れないぐらいしてきましたが、とうとう年をごまかせない定年を迎えてしまいました。

私の先生としてのスタートは、母校の中学校でした。恩師もいる職員室にいるのは、生徒が先生に囲まれて座っているようなものでとても緊張したのを覚えています。一方で、生徒と一緒にいるのは楽しく、無我夢中の毎日でした。

そして、ゴールは、この前渡小学校です。たくさんの子供たちと接することができ、幸せなゴールです。ありがとうございました。もう少し、幸せを味わいたいです。



つくし 西川先生

この度、令和5年3月31日付をもって本校で定年退職を迎えられる4名の先生方から、ひとことずつコメントを頂戴しました。大きな節目の時です。

4名の先生方、本当にお疲れさまでした。

4年1組 栗原先生

「おはようございます！」教室に響く声、「ありがとうございます。」と交わす声、そんなさわやかで温かい子どもたちに囲まれて、教員生活に一区切りをつけることができることを幸せに思います。思い返せば子どもたちの力になろうと夢中で過ごした37年間。でも力をもらっていたのは自分の方でした。WBCで大活躍の大谷翔平選手はあるインタビューで言っています。「今までできなかったことができるようになった瞬間が一番うれしい。」と。日々努力をして一つ一つできることを積み重ねた上にだれもが認めるスーパースターの地位があるのだと思います。子どもたちには向上心をもってコツコツと努力し、未来を切り拓いていってほしいと願っています。

